松江市SDGs未来都市計画

「国際文化観光都市 松江」の豊かさ創出 ~地域と世代をツナグ「水の都」と「城下町」の持続可能な発展を目指して~

島根県松江市

< 目次 >

1 全体計画

1. 1 将来ビジョン	
(1)地域の実態	2
(2)2030 年のあるべき姿	5
(3)2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット	7
1.2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1)自治体SDGsの推進に資する取組	10
(2)情報発信	18
(3)全体計画の普及展開性	18
1.3 推進体制	
(1)各種計画への反映	19
(2)行政体内部の執行体制	21
(3)ステークホルダーとの連携	23
(4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	25
1. 4 地方創生・地域活性化への貢献	26
2 自治体SDGsモデル事業	
(1)課題・目標設定と取組の概要	27
(2)三側面の取組	28
(3)三側面をつなぐ統合的取組	31
(4)多様なステークホルダーとの連携	36
(5)自律的好循環の具体化に向けた事業の実施	37
(6)自治体SDGsモデル事業の普及展開性	38
(7)スケジュール	39

1. 全体計画

1. 1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

(地理的条件)

本市は東西に細長い山陰地方(島根県・鳥取県) のほぼ中央、島根県の北東部に位置し、広島市から 約180km、大阪市からは鉄道距離で約370kmの距 離にある。市域は東西41km、南北31kmで、面積は

宍道湖(しんじこ)・中海(なかうみ)を含め 572.99 km²となっている。

市域は、日本海・宍道湖・中海と、その多くを水域に囲まれており、大橋川によって南北に分けられた中心市街地は6つの橋によって結ばれ、昭和47年の大水害の被災経験を教訓に、大橋川拡幅と背後地のまちづくりなど安心・安全の治水事業を進めている。

(交通アクセス)

陸路は、JR 山陰本線のほか、接続する JR 伯備線で山陽方面と結ばれている。高速 自動車網では、山陰自動車道や中国横断自動車道尾道松江線(中国やまなみ街道)、米 子自動車道とのルート連携によって山陽や四国方面と結ばれている。

空路の拠点は、松江市街地から車で30~40分の近距離に「出雲縁結び空港」と「米子 鬼太郎空港」という2つの空港を抱えている。

海路では、江戸時代に「北前船」の風待ち港であった七類港や近接の境港(境港市)から隠岐諸島まで高速船・フェリーが通じている。

(自然環境)

日本海の入り組んだリアス式海岸が特徴的な島根半島の南に宍道湖・中海という2つの汽水湖を抱く。両湖を合わせた広さは、165.3 kmと国内最大の連結汽水湖で、「ラムサール条約登録湿地」である。

塩分濃度が海水の2分の1の「中海」は国内5位の水域面積を誇り、安来市及び鳥取県(境港市・米子市)と接する。また、出雲市と接する「宍道湖」は、国内7位の面積を有し海水の10分の1の塩分濃度とされる。汽水湖ならではの個性ある生態系は「宍道湖七珍」「中海十珍プラス1」と呼ばれる食文化としても地域に知られている。

「くにびき神話」の舞台の一つとして市民に親しまれる島根半島、宍道湖、中海は、地質学的に貴重な日本ジオパーク「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」に認定されており、海岸線一帯は大山隠岐国立公園、宍道湖北山県立自然公園などにも指定されている。

(人口動態)

〈概況〉

2020 年国調人口は 203,616 人で、2000 年をピークに減少を続けており、直近の高齢化率は 30.2%(2022 年 3 月)、最も深刻な地域の高齢化率は 47.5%にも達する。

一方、生産年齢人口(15歳~64歳)の割合は 57.6%(2020年国調)と、減少傾向が続き、大きな危機感を持っている。

郊外エリアではこれまで1地域だった過疎地域が新たに2地域追加指定された。

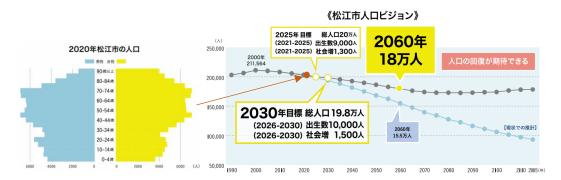
〈社会動態・自然動態〉

転出超過の状態が3年続き、特に就学や就職を理由とした若年層の県外への流出が顕著になっている。また、年間出生数も10年前と比べて300人程度減少し、1,500人を下回る水準となっている。転入については、近年Uターン者数が減少傾向にある一方で、Iターン者数は微増傾向にある。

合計特殊出生率(2021年)は 1.54と全国平均の 1.30を上回っているものの近年横ばい状態となっており、婚姻・出産の中心となる 20-39 歳の人口が 10 年間で約 7,900 人減少していることが主な要因と考えられる。

〈人口ビジョン〉

本市は 2005 年、2011 年の 2 度に渡る平成の大合併を経て、人口 20 万人の中核市となった。2021 年 10 月 1 日現在の推計人口は 202,280 人、前年比 1,336 人(0.66%)の減少となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本市の人口は 2060 年に15.5 万人まで減少するとされている。



2022 年 3 月、本市は松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定し、2060 年に 18 万人を確保することを目標に掲げた。

(産業構造)

環境省の地域経済循環分析(2018 年版)によれば、松江市の 7,384 億円の付加価値 生産額のうち、保健衛生・社会事業が最も付加価値を稼いでいる産業である。第三次産 業では、保健衛生・社会事業に次いで、専門・科学技術、業務支援サービス業、小売業が 付加価値を稼いでいる。松江市では第三次産業の雇用者所得への分配が最も大きく、 「国際文化観光都市」としての総合経済力を伸ばす必要がある。

2022 年 12 月の本市エリアの有効求人倍率は 1.96 倍で全国の 1.35 倍と比較して高い。

(地域資源)

〈城下町の暮らし〉

2015年に国宝となった現存12天守の一つ「松江城天守」をはじめ、松江藩松平家7代藩主で茶人として知られる不昧公(松平治郷)から現代に伝わる「茶の湯文化」、秋の風物詩として知られる「鼕行列(どうぎょうれつ)」、370年以上の歴史をもつ日本三大船神事の一つ「ホーランエンヤ」など、城下町の風情は今も市民の生活に残る。

〈豊かな自然と神話が息づいた文化〉

「水の都 松江」を代表する宍道湖の夕景や日本最古の美肌の湯として「出雲国風土記」に記された「玉造温泉」をはじめ、「古事記」と密接な史跡、2011 年にユネスコ無形文化遺産に登録された「佐陀神能」など、出雲神話の聖地や伝統行事等が多く残る。

〈市内 29 地域の住民主体のまちづくり〉

全国でも珍しい公設民営型の 29 か所の公民館では、住民自らが主体となってまちづくり計画(地域版総合戦略)を策定し、社会教育活動や防災、地域福祉など様々な地域課題の解決に取り組んでいる。

②今後取り組む課題

(人口減少対策と地方創生の推進)

脱炭素への貢献や DX の活用等によるスタートアップ支援、豊かな自然の中でのワーケーションなどの多様な働き方、地域で活躍できる場の創出など、次代を担う若者が求めるライフスタイルと親和性の高い取組を進める。

特に、観光産業のダメージを速やかに回復・再生させるとともに、2025年に予定される大阪・関西万博の好機を見据え、更に持続可能性を高め、成長する必要がある。

(市役所新庁舎オープンと行政のデジタル化)

新庁舎のオープンに合わせて行政サービスのデジタル化を進める。価値観の変化が激 しい時代に対応できる新たな行政サービスに果敢にチャレンジする必要がある。

(持続可能なエネルギー政策とパートナーシップ強化による脱炭素への取組)

全国で唯一、原子力発電所が立地する県庁所在市として再生可能エネルギーの推進に力を入れると共に、「国際文化観光都市」ならではの脱炭素先行モデルを構築する。 そのためにも、市民はもとより、企業や大学、金融機関、NPO、圏域自治体等の多様なステークホルダーとのパートナーシップの質をこれまで以上に高める。

(2) 2030 年のあるべき姿

2022 年 3 月に市民と共に新たな総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定し、SDGs の達成への意志とともに、次代を担う若者のため 2030 年に実現すべき松江らしい豊かなまちづくりへの道筋を定めた。

将 来 像 「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」 基本理念 「松江のジダイをつくる」

先人から受け継ぎ、日頃市民生活の中であたりまえとされる「水の都」「城下町」をはじめ とする松江にしかない強みを、「国際文化観光都市 松江」の構築に生かしていく。

■将来像を実現し、新たな松江のジダイをつくる「5つの柱」

- 🔝 (1)しごとづくり
 - ●松江発のユニークな事業や産業が誕生し、起業、創業に挑戦する若者が集い、いきいき と活躍している。
 - ●まちなかに個性的・魅力的な商店が集まり、市民や観光客がまち歩きを楽しんでいる。
 - ●四季折々の新鮮な農産品や魚介が食卓を彩り、市民の豊かな暮らしを支えている。
 - ●「国際文化観光都市・松江」の魅力が世界の人に伝わって、松 江ファンの輪が広がり、リピーターでにぎわっている。
- 🚷 (2)ひとづくり
 - ●子育て、教育環境が整い、だれもが「松江で育ってよかった」 「松江で育てて良かった」と感じる。
 - ●子どもたちが将来の夢や希望を描き、「生きる力」を身につけている。
 - ●個性が尊重され、だれもが思う存分活躍できるとともに、多様なコミュニティが形成され、 市民活動や地域の繋がりが大切にされている。

🤔 (3)つながりづくり

- ●多様な価値観や関わり方を尊重しあい、地域づくりや地域の経済活動を支える人たちの サイクルができている。
- ●松江の魅力・強みが注目されて、企業の拠点・UI ターン者を多く受け入れている。
- ●松江の歴史・伝統・文化・芸術に親しめる環境が身近にあり、地域資源に囲まれた暮らしを市民が楽しんでいる。
- ●スポーツを通じて健康な心と身体をつくり、明るい希望の持てる社会が築かれている。

👜 (4)どだいづくり

- ●市民の健康を支える医療、福祉が充実している。
- ●地球環境に配慮した「松江発」の取組により、世界に誇る「SDGs 未来都市」が誕生している。
- ●まちや水辺に人々が集い、利用しやすい公共交通機関が確保され、社会資本の整備と



MATSUE

2030

地域防災力の強化によって、まちの安心・安全が保たれている。

●市役所の手続きがとても便利になり、市民のための市政が進められている。

(5)なかまづくり

- ●宍道湖・中海に抱かれた5つの市がそれぞれの強みを持ち寄り、一つの経済圏として連携を図ることで、新しい価値が生まれている。
- ●活力ある経済基盤を築くとともに、脱炭素社会の形成に向けた環境対策、高速交通網の 整備など、圏域の共通課題を5市が一体となって解決している。

■全ての行政分野で推進すること

(1)人口減少対策の推進

将来にわたって安定した市民生活を維持するため、若者世代に焦点を当て、人口増と 出生数の回復を図り、バランスが取れた年齢構成への移行を目指す。そのために、2060 年に18万人(2030年に19.8万人)の人口を確保することを目標とする。

(2)文化力を生かしたまちづくり

市民の暮らしの根底にあり、市民の誇りとなりうる「松江の文化力」を認識し、誰もが心豊かになれるまちとなるため、「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」(2021年3月30日)を制定した。観光や教育など様々な施策分野において松江の文化力を生かしたまちづくりを推進していく。

(3)デジタル技術の活用

本市がこれまで「Ruby City MATSUE プロジェクト」で培ってきた IT ブランドや、プログラミング教育を通じた IT 人材育成などを発展させ、行政サービス、産業、教育、医療・福祉等あらゆる分野での DX を進めるなど、コロナ禍の経験を徹底的に生かし、都会よりも"ちょうど良い"地方都市の豊かな暮らし方を浸透させる。



(4)市域内のバランスのとれた発展

将来にわたり生活に必要なサービスを維持し、 市全体を持続可能なまちとするため、市街地や 集落などの既存コミュニティを交通で結ぶ「コンパ クト・プラス・ネットワーク」の形成を目指すととも に、中心市街地の再生を推進する。



(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

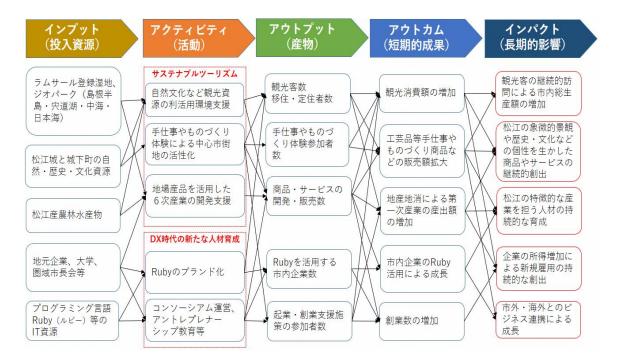
	-ル、 ット番号		KPI
8 確きがいも 経済成長も	8.9	指標∶観光消費額	
		現在(2020年)	2030 年:
		349 億円	750 億円
2 ### ####	2.3	指標:第一次産業の産出額	
(((14.b	現在(2019年):	2030 年:
14 mogarse (%)		95 億円	102 億円

■ゴール・ターゲット・KPI の理由

- 8.9 「水の都」や「城下町」などの「国際文化観光都市」の魅力によって商品やサービスの 高付加価値化が図られることで観光消費額が伸び、国の観光立国政策へも貢献でき る。また、起業や新ビジネスへの挑戦などを通じて市内産業全体の付加価値が高ま り、経済成長につながる。
- 2.3,14.b 農水商工連携を推進し、6次産業化を推し進めることで、第一次産業の需要拡大により生産者所得と生産基盤が安定し、持続可能な産業となる。

■取り組みのポイント

- ① 起業や新ビジネスに挑戦する人材育成と革新的な技術・商品・ライフスタイルの創出
- ②松江ならではの手仕事やものづくり体験
- ③6次産業化や農水商工連携の推進による商品開発や販路拡大
- ④松江の魅力を生かした観光振興と広域連携



(社会)

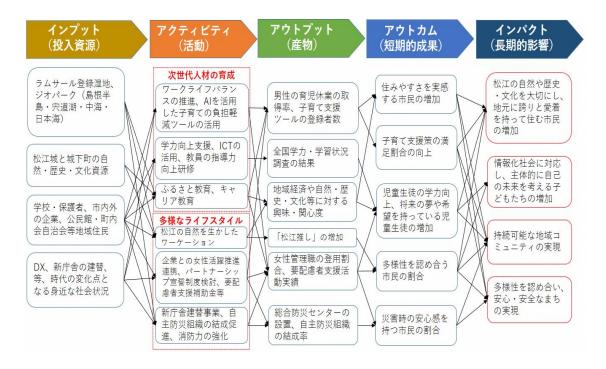
ゴー ターゲ:	-ル、 ット番号	KPI	
4 質の高い数有を	4.7	指標:将来の夢や希望を持って	いる児童・生徒の割合
	10.2	現在(2021年):	2030年:
10 人や国の不平等 をなくそう	11.a	小学生 79%	小学生 87%
4≜>	16.7	中学生 68%	中学生 72%
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	10.7	指標:住みやすさを実感する市民の割合	
11 性み続けられる まちつくりを		現在(2020年):	2030年:
		82.9%	90%
16 平和と公正を すべての人に		指標:合計特殊出生率	
September		現在(2020年):	2030 年:
· <u> </u>		1.53	2.22

■ゴール・ターゲット・KPI の理由

4.7,10.2,11.a,16.7 地域や職場、学校、家庭など、あらゆる場面において誰もが自分の個性と能力を十分に発揮し、多様なライフスタイルを享受できることで、地域に対する誇りや愛着が生まれ、次世代を担う人材を育む環境が創出される。

■取り組みのポイント

- (1)子ども連れや家族で楽しめる憩いの機会の創出
- ②個性と能力を伸ばし、地域資源や海外の文化に触れる教育
- ③多様性を認め合う共生社会の創出と連携強化
- ④「水の都 松江」を実感できる多様なライフスタイル
- ⑤安心・安全の質の向上



(環境)

	-ル、 ット番号		KPI
12 つくる点件 つかう実性	12.4	指標:二酸化炭素排出量	
CO		現在(2018年):	2030年:
		1,434 千t-CO2	916 千t -CO2
6 変金な水とトイレ を世界中に	6.3	指標∶宍道湖・中海の水質	
O	14.1	現在:(2014~2018年)	2025 年:
14 aonase	14.2	(COD75%値) 宍道湖:4.7~5.3mg/L 中 海:4.4~5.2mg/L (全窒素) 宍道湖:0.45~0.52mg/L 中 海:0.50~0.59mg/L (全りん) 宍道湖:0.038~0.056mg/L 中 海:0.048~0.064mg/L	(COD75%値) 宍道湖: 4.6mg/L 中 海: 4.4mg/L (全窒素) 宍道湖: 0.47mg/L 中 海: 0.46mg/L (全りん) 宍道湖: 0.039mg/L 中 海: 0.046mg/L

■ゴール・ターゲット・KPI の理由

- 12.4 太陽光・風力・地熱・小水力・木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及を図るほか、宍道湖・中海・日本海の水草や海藻によって吸収される CO2(ブルーカーボン) を活用した脱炭素の取り組みで、CO2削減が進む。
- 6.3,14.1,14.2 「水の都 松江」を代表する汽水域である宍道湖・中海及び日本海を展開エリアとした市民一体となった取り組みを行い、生態系の回復と成長が図られる。

■取り組みのポイント

- ①2050年のカーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの普及促進
- ②宍道湖・中海・日本海をはじめとする豊かな自然と歴史文化の調和
- ③資源循環とまちの美化



1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

国際課題である SDGs を達成するとともに、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を実現することにより、人口減少対策という積年の課題解決を前進させるとともに、コロナ禍で傷ついた市内経済を早期に回復し、更なる成長と発展をもたらす。

■2030 年へのロードマップ

2022 年: 松江市版 SDGs と共にまちづくりを加速

<創出する価値>「松江サステナビリティポリシー」掲げた市の意志を市民と共有

2023~25 年(中間目標):「SDGs の浸透・定着」

☞ 市民生活での必然性創出と日常化

<創出する価値>(経済)松江の商業資源強化、ESG 経営の基盤強化

(社会)地域課題解決の質の向上

(環境)保全活動の裾野拡大・日常化

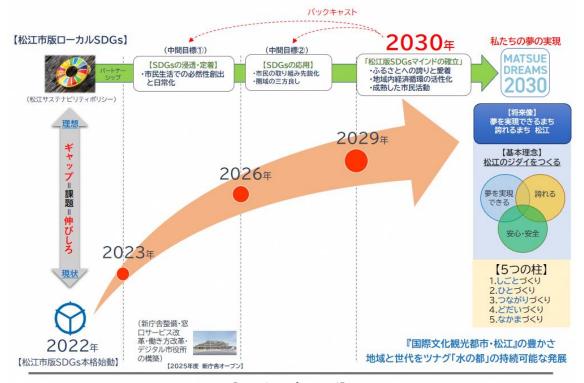
2026~28 年(中間目標):「SDGs の応用」

☞ 市民の取組の先鋭化、圏域の三方良し

<創出する価値>(経済)世界をリードする産業の育成

(社会)分野横断的な連携強化による新たなアイデア創出 成功事例をもとにした課題解決スキームの蓄積

(環境)世界視点の活動普及・展開、持続的活動の確立



【ロードマップイメージ】

■脱炭素社会実現への道のり

本市は、2020年 12 月に「ゼロカーボンシティ」を表明し、2050年までに温室効果ガス

の排出量を実質ゼロとすることを長期的な目標に掲げている。 2022 年 6 月に民間企業と共に「カーボンニュートラルに関す る連携協定」を締結し、2023 年 3 月に再生可能エネルギービ ジョンを策定した。4 月に「脱炭素先行地域」に選定されたこと を契機に、さらに「国際文化観光都市 松江」ならではの脱炭 素先行モデルを構築する。



協定締結式の模様

①松江らしさ先行モデルからのイノベーション

観光エリアなどの旅館について脱炭素化を図り、カーボンニュートラル観光の聖地を目指す。市有施設での PPA による太陽光発電・蓄電池の導入を進めるとともに、ごみ処理施設「エコクリーン松江」で発電した再生可能エネルギー活用の仕組みを構築し、エネルギーの地産地消への転換を図る。また、市有遊休地を活用したオフサイト PPA や、温泉のバイナリー発電の活用も進める。

②公用車の EV 化による多彩なバックアップ

公用車、市営バスの EV 化を図るとともに、災害時の指定避難所となる公民館などに充 放電設備等を設置して平時の電力調整及び災害時の電力供給を可能にする。

③観光モビリティの電動化

史跡松江城を一周する堀川遊覧船の船外機動力電動化を図るほか、グリーンスロー モビリティーなどの導入促進を図り、環境負荷の少ない観光地を目指す。

④水草・林地残材のバイオマス源としての活用

水草・林地残材をごみ処理施設「エコクリーン松江」の助燃材の一部代替及びバイオマス資源として活用し、バイオマス比率を高める。

⑤「水の都 松江」ブルーイノベーション

海藻や水草の CO2 吸収を活用したブルーカーボンの取組を進め、カーボンクレジットについても研究を進める。

■中海・宍道湖・大山圏域の連携

交通環境やビジネス環境など生活圏・文化圏を共有し、圏域人口 64 万人を有する「中海・宍道湖・大山圏域市長会」や経済界との連携強化を図り、中海・宍道湖で県境・市境を周辺自治体と共有する本市のメリットを最大限に発揮する。



11

(経済)

①起業や新ビジネスに挑戦する人材育成と革新的な技術・商品・ライフスタイルの創出

ゴー ターゲッ			KPI
8 魔きがいち 雑漢成長も	8.3	指標:創業数(新設法人数)	
∞		現在(2020年):	2025 年:
		88 社	120 社
9 連集と技術主題の 基盤をつくろう	9.5	指標:市内企業 Ruby 売上高	
		現在(2020年):	2025 年:
		1,307 百万円	1,970 百万円

【主な取組】

●MATSUE 起業エコシステムの構築

松江発の新ビジネスが継続的に生まれ育つ仕組みづくりとして、2023 年 1 月に産学官金 19 団体で構成するコンソーシアムを設立した。コミュニティ「MIX」の運営のほか、アントレプレナーシップ教育を行うなど、チャレンジャーの目標に寄り添った支援を提供し、地域産業の持続的発展を図る。

●Ruby City MATSUE プロジェクトの推進

プログラミング言語 Ruby の生みの親であり、松江市在住の名誉市民「まつもとゆきひろ」氏との縁をもとに、「Ruby のまち」としての地域ブランド創生、Ruby 人材の育成・定着、IT 企業の裾野拡大と集積などを促進する。

②松江ならではの手仕事やものづくり体験

	−ル、 ット番号		KPI
8 進きがいも 経済成長も	8.3	指標:出雲かんべの里工芸ショッ	プ及びクラフト展での工芸品販売額
		現在(2020年):	2025 年:
		2,165 千円	8,745 千円

【主な取組】

●松江工芸の魅力発信と担い手育成、職人商店街創出

松江にある「ものづくりの文化」や、老舗の伝統工芸店・工芸職人をつなぐ「職人商店街」 を創造し、中心市街地の賑わいを取り戻す。工芸体験ができる店舗改装の支援などによ り、松江に住む子どもたちにとっての「誇れるまち」の実感とまちの回遊性を高める。さらに Web サイトを通じて松江工芸の魅力を発信していく。

③6次産業化や農水商工連携の推進による商品開発や販路拡大

	-ル、 ット番号	KPI	
2 ###	2.3	指標:第一次産業新規就業者数	
""	14.7	現在(2022年): 35人	2025年: 150人(2022年度からの累計)
14 海の量かさを 守ろう		指標:農水商工連携での新商品開発数	
		現在(2020年):	2025 年:
		76 品 96 品(2010 年度からの累計)	

【主な取組】

●売れる農林水産物の生産振興と消費・販路拡大

そば・大豆・西条柿など特色ある松江産農産物のブランド化と販路拡大を図るとともに、 学校給食現場などでの地産地消と食育を推進する。また、市の重点推進品目の生産拡大 を市内全域で推進し、産地化と小規模農家の所得向上を図るほか、アワビ種苗の陸上養 殖の実用化への取組や、大根島牡丹の産地維持と国内外への販路拡大を図る。

●6次産業化や農水商工連携による地域経済の活性化

農林水産業者と商工業者の業種を超えた連携を促し、地域資源を活用した新商品開発と販路拡大を図る。事業者マッチングや研修会・交流会の他、新商品開発の助成やイベント出店支援などを行い、地産地消(外消)と食・産業・体験にまつわる新たな観光素材づくりを進める。

④松江の魅力を生かした観光振興と広域連携

ゴー ターゲッ			KPI
8 間をがいも 経済成果も	8.9	指標:観光入込客数	
		現在(2020年):	2025 年:
		537 万人	1,020 万人
		指標:観光宿泊客数	
		現在(2020年):	2025 年:
		115 万人	219 万人
		指標:外国人観光宿泊客数	
		現在(2020年):	2025 年:
		0.8 万人	8.6 万人

【主な取組】

●「松江城」や「水の都 松江」の強みを生かしたプロモーションとブランディング戦略 2023 年 2 月に策定した「MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029」に基づき、本市の重要産業である観光による地域経済の持続的な発展を図る。「城下町」や「水の都」を生かして観光素材を更に磨き上げる。

また、水辺の利活用促進をキープロジェクトに、観光客が歩きたくなるまちなみ環境整備と観光を担うひとづくりを進めるほか、圏域自治体とも連携してインバウンドの増加を目指す。加えて、新たな観光推進組織づくりと新たな観光財源の検討も進めるなど、観光地松江の土台づくりを進める。

(社会)

①子ども連れや家族で楽しめる憩いの機会の創出

	-ル、 ット番号		KPI
4 質の高い数等を 3.6.7%	4.2	指標:男性の育児休業取得率	
l	4.7	現在(2020年):	2025 年:
	5.4	データなし	50%
5 ジェンダー平等を 実現しよう		指標:子育て支援策の満足割合	
(₽		現在(2020年):	2025 年:
+		62%	80%

【主な取組】

●ワーク・ライフ・バランス、子育ての支援

ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組む企業や団体が加入する「松江ワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」など、市内企業や市民、行政が一体となって男性の育児休業取得促進などに取り組む。

また、「まつえの子育て AI コンシェルジュ」、「保育所等 AI 入所選考システム」、病児保育のネット予約サービスの活用など、親子の触れ合いの機会創出と安心して子育てできる環境の充実に取り組む。

②個性と能力を伸ばす教育、地域資源や海外の文化に触れる教育

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
4 #000 Whe 4.1	指標:全国学力・学習状況調査における全国平均値以上の学校の割合	
	現在(2021年):	2025 年:
	小 6…36%	小 6…55%
	中 3…38%	中 3…60%

【主な取組】

●「夢☆未来」学力育成、ふるさと・キャリア教育の推進

小中学校に学力向上支援講師及び学力向上支援員を配置し、児童生徒の「確かな学力」を育成する。

加えて、「松江市版GIGAスクール構想」に基づき、市立小・中・義務教育学校の情報化 社会に対応できる能力育成を一層進める。

また、「まつえ『子ども夢☆未来』塾(職業人出前授業)」や「松江城授業プロジェクト」など を通じて、ふるさとを愛し、主体的に自己の未来を考える子どもたちを育む。

③多様性を認め合う社会の創出と連携強化

ゴーターゲ:	-ル、 ット番号	KPI	
5 ジェンダー平等を 実現しよう	5.1	指標:固定的な性別役割分担意識にとらわれない市民の割合	
(= 7	5.5	現在(2020年):	2025 年:
Ŧ		74.7%	80.0%

【主な取組】

●男女共同参画、多文化共生、要配慮者への支援

企業の女性活躍推進企業認定「えるぼし」を推進するほか、地元大学の情報系以外の 学生を対象とした「まつえ IT 女子インターンシップ」の実施など、企業との連携を深めてい る。さらに、婚姻に準ずる「パートナーシップ宣誓制度」の導入検討を進めるなど、「性のあ り方」にかかわらず誰もが活躍できる社会環境を整備する。

また、要配慮者が安心して地域社会で暮らせるよう、市政情報の多言語化や災害時の 支援体制などを整備するほか、出前講座等を通じた障がいへの理解促進と合理的配慮の 普及に取り組む。

地域活動の成功事例発表会の場や地域課題の提案イベントを通じて、様々な立場のステークホルダーがそれぞれの強みを生かし、連携しながらまちづくりを進める。

④「水の都 松江」を実感できる多様なライフスタイル

	−ル、 ット番号	KPI	
11 性み続けられる まちつくりを	11.7	指標:水辺が利用しやすいと感じる市民の割合	
		現在(2020年):	2025 年:
		51%	62%

【主な取組】

●関係人口の創出、松江式ワーケーションの展開 自然の豊かさや観光・食など松江ならではのワーケーションの魅力を生かすとともに、へ ルスケアや地域との交流を取り入れたワーケーションプログラムの提供で「松江推し」を増やしていく。

また、水辺での日常的な賑わい創出実験や「水の都」を感じることのできるアクティビティの提供、「中海」エリアにおける県境を跨ぐ全国初の試み「AI デマンドバス」の運行など、「水の都」にふさわしい取組を進める。

⑤安心・安全の質の向上

ゴール、 ターゲット番号			KPI
11 性みだけられる まちつくりを	11.b	指標:災害時の安心感を持つ市民の割合	
13 August	13.1	現在(2020年): 41.4%	2025 年: 51%

【主な取組】

●新庁舎整備、防災力・消防力の強化

現在、2025 年度完成を目途に老朽化した市庁舎の建替事業が進んでいる。免震構造の 新庁舎には各種防災機能を連携し統括管理する総合防災センターを設置する計画であり、 市民の新たな安心・安全の拠点となる。

また、町内会・自治会単位で結成される自主防災組織の結成を促進し、地域における防災意識の啓発活動を支援することで、住民相互の協力体制を中心とした地域防災力の強化に努める。

さらに、消防署に指揮隊を設置し、現場対応力の強化を図るとともに、消防団との連携を 深め、市域全体の消防力を高める。

(環境)

①2050年のカーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギーの普及促進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
	指標: (現在検討中)	
	現在: (未定) 2025 年: (未定)	

2023 年 3 月に「松江市再生可能エネルギービジョン」を策定した。今後アクションプラン 等を策定する予定であるため、改めて指標を設定する。 太陽光・風力・地熱・小水力・木質 バイオマスなどのほか、宍道湖・中海・日本海の水草や海藻によって吸収される CO2(ブル ーカーボン)の活用など、あらゆる取組を通じてカーボンニュートラルを実現する。

②宍道湖・中海・日本海をはじめとする豊かな自然と歴史文化の調和

ゴール、 ターゲット番号			KPI
13 朱统差制に 非常的对策を	13.3 14.2	指標:海岸等漂着ごみボランティア清掃参加者数	
14 %0 \$0.00 \$\\ \times	17.2	現在(2019年): 5,703人	2025 年: 6,700 人

【主な取組】

●海岸漂着ゴミの対策

日本海に面している本市にとって大きな課題の一つである海岸漂着ごみ問題を前進させるため、地域住民や行政・企業・団体等との連携を強化して解決へのプロセスを構築する。 漂着ゴミの現状・課題のほか、松江固有の自然環境や生態系について市民全体の理解を 更に促すとともに、アップサイクルの楽しみや気づきを通じて回収ボランティア活動の裾野 を拡大し、市民の行動変容に繋げる。

③資源循環とまちの美化

O > 1					
ゴール、 ターゲット番号			KPI		
11 任み続けられる まちづくりを	11.6	指標:1人1日あたりのごみ排出量			
	12.5	現在(2019年):	2025 年:		
12 つくる点ff つかう実任		1,046g/人日	971g/人日		
CO					

【主な取組】

●4R の推進

使い捨て包装容器やプラスチック製品の使用削減のほか、リユースやリサイクルを市民 や企業と協働で進めるとともに、ゴミの分別推進やアップサイクルによる高付加価値化を図 ることで、食品ロス対策や脱プラスチックなどの市民生活に身近な分野を意識した取り組み を進める。

(2)情報発信

<基本方針>

松江市 SDGs アドバイザー (市民パートナーシップ・アドバイザー) 及び広報企画 官との連携により、わかりやすく活用しやすい情報発信を行う。

(域内向け)

■市の基礎的情報基盤

市報や SNS、動画などを活用した全世代型の情報発信に加え、多様なターゲットに直接訴えかけることのできる情報発信チャンネルの向上と市の組織体制整備を進める。

■松江市版ポータルサイトの開設

SDGs ポータルサイトを開設し、併せて、国内の先進自治体や大学、姉妹都市、海外の友好都市などとの連携による情報発信により、松江ならではの特徴ある情報発信を目指す。

- ■情報ペーパー「MATSUE SDGs NOW!」の発信 楽しみながら市民が気軽に情報に触れ、拡散容易な啓発環境をつくる。
- ■松江市 SDGs ウィークの開催

市民を対象に SDGs をテーマにした期間イベントを実施する。

■「水の都 tube」僕らの ESD 教材プロジェクト

小中学校の子どもたちが主体となり SDGs の啓発動画を作成する。学校教育現場や地域学習での啓発と取組の裾野拡大を目指す。

(域外向け(国内))

ふるさと松江の SDGs への理解促進とふるさと寄附を通じた市民へのフィードバックの取組を進める。また、中海・宍道湖・大山圏域の自治体と連携した魅力発信により、サステナブルツーリズム等の相乗効果を発揮する。

(海外向け)

松江市版ポータルサイトやトップセールスなどを通じて友好都市提携を結んでいる海外都市と情報共有・連携を図ることで、インバウンドの増加はもとより、SDGs の横展開や市内企業の海外進出環境の強化、市民レベルでの交流の促進を図る。

(3)全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

ブランドカのある地域資源を生かした SDGs は、コロナ禍を経て停滞した地方の観光 産業の復興と新たな課題発見にとって参考となる。

また、城下町から農村・漁村まで市内各地域の様々な個性を生かしたまちづくりや県 庁所在市ならではの多様なステークホルダーとのパートナーシップによる市民運動の展 開、通勤圏や生活圏を同じくする中海・宍道湖・大山圏域の自治体間連携のロールモデ ルにもなる。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 基幹計画

【松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」】

従来は別々に策定していた「総合戦略」と「総合計画」を一体のものとし、目標年度を SDGs と同じ 2030 年に定めた。バックキャスト手法を導入するとともに SDGs のゴールと施 策との結び付けを明記し、持続可能な「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」のまちづく りに取り組むこととした。(2022 年 3 月策定済)

2. その他の計画

【松江市環境基本計画】

2025 年度を目標年次とし、脱炭素社会の実現を重点目標に定めた「環境基本計画」について、SDGs のゴールを計画の取り組みと関連付け、環境だけでなく経済、社会にも関わる複合的な課題解決が重要であることを意識付けした。(2021 年 3 月策定済)

【松江市地球温暖化対策実行計画】

2025 年度を目標年次とし、地球温暖化防止を目指して環境基本計画を具体化する「松江市地球温暖化対策実行計画」について、SDGs をカーボンニュートラル社会実現のための施策体系に位置付けることを予定。(2023 年夏改定予定)

【松江市再生可能エネルギービジョン】

2025 年度を短期目標年次とし、脱炭素社会の実現に向けた、再生可能エネルギーの導入拡大を定める「再生可能エネルギービジョン」について、SDGs の理念を核に市内の住宅や事業所における再生可能エネルギー導入支援に加え、水資源などの松江らしい特性を踏まえた再生可能エネルギー導入の可能性を調査追求し・地域経済の活性化につなげる。(2023 年 3 月策定済)

【MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029】

2030 年を目標年次とし、コロナ禍による影響や観光地の地域間競争などに対応する目的で策定した「MATSUE 観光戦略プラン 2023-2029」について、SDGs の理念をパートナーシップの強化や観光資源の活用、オーバーツーリズムの抑止など、世界を意識した持続可能な観光の基盤に据えた。(2023 年 2 月策定済)

【松江市住生活基本計画】

2032 年度を目標年次とし、誰もが安心して暮らし続けられる住まいづくりに向けた基本 指針を定める「松江市住生活基本計画」について、SDGs を基本理念実現のための一体的 なゴールとして基本目標に明記し、取り組みを推進していくこととした。(2023 年 3 月策定 済)

【第3次松江市男女共同参画計画】

2026 年を目標年次とし、男女共同参画社会の実現に向けた施策の指針となる「第3次 松江市男女共同参画計画」について、SDGs を達成する意志を基本目標に明記し、様々な 関係者と連携しながら我が国のジェンダーギャップ是正に寄与する取り組みを推進していく こととした。(2022 年3月改定済)

【松江市農林水産業振興計画】

2023 年を計画年次とし、本市の農林水産業や農山漁村における課題に対応し、農林漁業者の所得向上などを目指す基本指針として定めた「松江市農林水産業振興計画」について、SDGs を施策体系に位置付けることを予定。(2024 年 3 月改定予定)

【松江市過疎地域持続的発展計画】

2025 年を目標年次とし、過疎地域の脱却と持続可能な地域づくりへの取組を定める「松江市過疎地域持続的発展計画」について、SDGs によるまちづくりの視点を盛り込み、施策を整理して記載する予定。(2026 年 3 月改定予定)

【島根半島・宍道湖中海ジオパーク推進行動計画(マスタープラン、アクションプラン)】

2025 年を目標年次とし、ジオパークの目指す地域像や取り組みの方向性等を定める「島根半島・宍道湖中海ジオパーク推進行動計画」について、具体的な取り組みを通じて SDGs に貢献することとした。(2022 年 11 月策定済)



(2) 行政体内部の執行体制

■進捗管理のしくみ

市長の強力なリーダーシップのもと、組織ガバナンスの全般にわたり外部登用人材である「松江市 SDGs アドバイザー」及び「広報企画官」の客観的な視点により、着実な SDGs の推進を目指す。併せて、当事者側(職員)の検証にセルフチェックとアウトサイドインのチェックプロセスを織り交ぜ市役所内部の推進体制強化を図るとともに、より多角的な進捗管理と人事異動による職員の成熟度に左右されにくい持続的な検証体制を構築する。

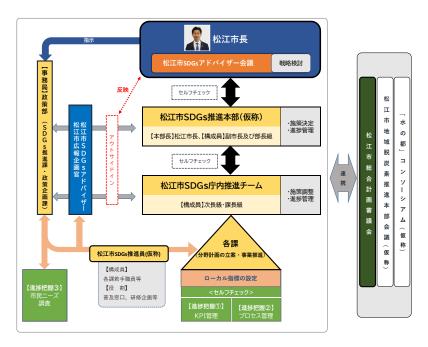
■各体制の役割

- ▶ 庁内各部署···分野計画の立案·事業推進、セルフチェック
 - 「SDGs 推進員」 ···若手職員等<普及窓口、研修企画等>
 - 「SDGs 庁内推進チーム」 …次長・課長級<施策の調整、進捗管理>
 - 「松江市 SDGs 推進本部(仮称)」···市長以下部長級以上<施策決定·進捗管理>
- ▶「松江市総合計画審議会」 · · · 外部会議、情報共有・進捗管理・提言
- ▶ 事務局···政策部 SDGs 推進課·政策企画課
- ▶ 総合監修…松江市 SDGs アドバイザー(2022 年 9 月~)
 - ①サステナビリティ・アドバイザー
 - (SDGs の進捗管理手法・SDGs に関する制度構築などに関する指導・助言)
 - ②市民パートナーシップ・アドバイザー

(SDGs に関する市民との連携・SDGs に関する教育や情報発信等に関する指導・助言)

▶ 広報監修…松江市広報企画官(2022年5月~)

(公式 SNS のアクションプランの作成、市の情報発信の分析、改善提案、職員研修等)



■評価方法

- ▶ 本市の SDGs にかかる総括評価は、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」の検証に合わせて行う。(個別計画については、各計画に定める進捗管理の方法による)
- ▶ アウトサイドインの視点を基本に据え、施策プロセスを意識できる以下の4つのポイントで進捗状況を把握し、その後の施策推進にフィードバックする。

①施策·事業の KPI 評価

- ▶ 比較検討可能で客観性ある評価のローカル SDGs の指針として、「地方創生 SDGs ローカル指標リスト 2022 年 9 月版(第二版)(自治体SDGs推進評価・調査検討会 <自治体SDGs推進のためのローカル指標検討 WG>」を基本とし、随時更新を反映していく。
- ▶ 市の実態を更に SDGs に反映するため「松江市版 18 番目のゴール」及び「松江市版ローカル指標」を作成するなどし、市民はもとより様々なステークホルダーと共通の目標達成に向けて連携を強化する。

②行政内部のプロセス評価

- ▶ 事業KPIに至るまでの施策決定プロセス等における SDGs の質向上のため、2022 年 10 月から庁内全部署の SDGs 実践状況を確認し作業を通じて浸透を図っている。
- ➤ 2022 年度の検証評価ソフトウェアの実証試験を踏まえて本格導入を目指し、業務推進における SDGs のスタンダード化を図る。

③セルフチェックの有効性を高めるための市内部の縦割り打破環境の整備

- ▶ 政策部で SDGs 推進事務局を担い、庁内ガバナンスを明確にする。
- ▶ 庁内各部署における SDGs の日常化を図り、分野横断的な連携を浸透させるため、定期的に「SDGs 庁内セミナー」を開催し、市長以下幹部職員が同じ場で学びを深め、先頭に立って SDGs を進める組織風土を形成する。
- ► 一般職員対象の行政課題研修や予算編成・執行関係等説明会等の研修の場を活用・ 創出するなど、政策部と人事及び財政部門との業務連携を強化し、施策や予算と SDGs との密接な関連性に気づき、行動することができる人材を育成する。
- ▶ 現在発行している庁内広報誌「SDGs NOW!」を継続し、自然な形で恒常的に SDGs の 価値観に触れる環境づくりを行う。

4市民アンケート等

- ▶ 総合計画推進の一環で行う「まちづくりアンケート」に SDGs の設問を設け、SDGs への市民の理解度や主体的取組の意志のほか、SDGs 普及の阻害要因などを把握するとともに、毎年度の継続実施により啓発効果を高め、市民の行動変容を促す。
- ▶ 「松江サステナビリティポリシー」に掲げた「出会いを喜び合えるパートナーシップ」の実現のため、主要な連携事業実施の際にステークホルダーとの相互評価を行う。

(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

① 住民

(地 域) 地域課題に最も身近な市内 29 地域の公民館及び町内会自治会連合会との連携を全ての取組の基礎的な体制に位置付け、ともに取り組みを進めることで、地縁を生かした円滑な課題解決と継続的な地域人材の育成を図る。

また、市民によるまちづくり活動の取組発表の場「まちづくりを考える日」を通じて、 SDGs を意識した地域活動を展開する。

(若 者) 市内に高等教育機関等が集積するほか、若者団体によるまちづくりの機運が芽吹き始めた優位性を生かして、 SDGs 推進の中核に若者・女性人材を据え、従来のカテゴリや手法などの固定観念に縛られない、トライ・アンド・エラーによるチャレンジが可能な場づくりを行う。



(UI **ターン**) 長期居住による先入観にとらわれない立場の多様な気づきを新たな選択肢として提示してもらうとともに、プレイヤーとしても高い機動性を期待してもらえるよう、他のベテランステークホルダーとの良好な関係を構築しやすい環境づくりを支援する。

②企業・金融機関

- ➤ 「SDGs 企業宣言・登録制度」を創設し、本市の SDGs 推進の際の強力なパートナーとして明確にすることで企業価値を高める。
- ▶ 異業種交流研修などを通じて、組織の枠にとらわれない実務的な人材育成を進める。
- ▶ 市内のステークホルダーのネットワーク(「水の都」コンソーシアム)の設立を図ることで、 企業等がステークホルダーとの連携を経営強化に生かせる機会を拡大する。

③教育•研究機関

- ▶ 市内小・中学校、義務教育学校及び高校の地域課題研究の支援や「ミライソウゾウプログラム」の開発実践を通じて、ふるさとへの誇りと愛着を育み、SDGs への挑戦とアントレプレナーシップの機運醸成を図る。また、本市の強みである中・四国地方唯一の公立の女子高校「市立松江皆美が丘女子高等学校」との連携により、次世代に活躍できる女性人材の育成を進める。
- ▶ 小中学校での SDGs 出前講座などを通じて、次世代人材を 育む教育現場や保護者への SDGs の浸透を図り、子どもた ちが接する日常環境における SDGs の普及促進を図る。
- ▶ 島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校などの地元の高等教育機関はもとより、法政大学・東京大学などの市外大学の学生参加による、サステナブルツーリズムの

試験ツアーや企業プロボノへの参画協力の実績などをもとに、関係人口の強化と SDGs の視点を盛り込んだ学術研究の機運向上を行う。

④NPO等

- ▶ 本市には、子育てや公共交通など様々な分野課題に主体的に対応する実効性あるプレイヤーが多く存在する。また、各団体の関係づくりの場として「松江 NPO ネットワーク」が設立されているため、多様な主体が繋がることで SDGs 達成への取り組みを官民の協働で進める。
- ▶ 2023 年はこの強みを生かし「第39回 地域づくり団体全国研修交流会(全体事務局 (一社) 地域活性化センター)」の開催地として、全国の地域活動団体とのネットワーク 拡大とまちづくり人材の育成を支援する。
- ▶ ラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海並びに「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の保全活動を実践する自治体や NPO 等が構成する各種協議会と連携し、共通の目標達成に向け相乗効果を発揮する。

2. 国内の自治体

▶ 県境や市境を跨いで生活圏や文化圏を一にする中海・宍道湖・大山圏域の自治体とともに本市の SDGs 達成への取組と、圏域の共通課題の解決に取り組むことで、スケールメリットを生かした相乗効果を発揮する。



- ▶ 松江開府の祖・堀尾吉晴公の縁により生誕地である愛知県大口町との中学生の修学旅行交流を実施している。また、宝塚市とのスポーツ少年団交流など、子どもたちの SDGs 教育活動を通じた姉妹都市の交流活動を研究し、相互理解と次世代を担う人材育成を強化する。
- ▶ 斐伊川水系にある宍道湖・大橋川・中海を抱える「水の都」の特徴を生かし、2023 年 11 月に「第 15 回 全国水源の里シンポジウム(全国水源の里連絡協議会)」の開催地として全国の上下流自治体間の交流促進の一翼を担う。これを契機に「水環境」をキーワードにした地域間連携をスタンダードにする。

3. 海外の主体

- コロナ禍で中断した海外の国や地域、都市との交流を再開する。
- ▶ 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の縁で親交のあるアイルランドのほか、中国(吉林市、銀川市、杭州市)、韓国(晋州市)、アメリカ(ニューオーリンズ市)の友好都市と SDGs をテーマとして交流の深化を図る。
- ➤ あわせて、SDGs をキーワードに子どもたちを中心にした連携事業を模索するなどし、 互いの先進的な事例の横展開と市内の SDGs への取り組みの底上げを図る。

- 松江市を含む中海・宍道湖・大山圏域市長会として2015年12月に経済交流覚書を締結したインド・ケララ州、2022年10月に交流促進の覚書を締結した台湾・台北市と産業・経済分野での交流の深化を図る。
- 今後関係構築が期待されるアメリカに関しては、本市が進める「Ruby City MATSUE プロジェクト」や「MATSUE 起業エコシステム」を推進し、本市が「シリコンバレーへのゲートウェイ都市」となることも視野に入れ、実現可能性や連携方策について検討を図る。
- ▶ また、これまでの既成概念にとらわれずに市の組織変革を推し進めるため、世界標準の先進的な自治体との連携も視野に入れる。

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

■「水の都」コンソーシアム 【モデル事業関連】

➤ SDGs 達成への取り組みを行政と企業や高等教育機関、市民団体、市民などが共有する場として、多様なステークホルダーが繋がる SDGs コンソーシアムを形成し、啓発活動や取組の実践と共有、人材育成と新たな関係性の構築などにより、本市のローカル SDGs 推進の官民協働エンジンとする。

■企業宣言・登録制度の創設 【モデル事業関連】

- ➤ SDGs 経営に積極的な企業が本市の SDGs 推進にあたって強力なパートナーであることを客観的に「見える化」することで、本制度が市内の事業所にとって良好なバリューチェーンを築くきっかけとなり、新たな SDGs 経営の実践が誘発されるよう、企業価値の向上に寄与する制度構築を目指す。実績を精査し認証制度への移行も検討。
- インセンティブ等の詳細制度構築にあたっては、官民共同による持続的な制度運用とともに、ウォッシュを防ぐ仕組みとなるよう留意し、商工団体や金融機関等と官民連携により構築する。

■ジュニア SDGs リーダー育成事業等 【モデル事業関連】

- ➤ SDGs と松江市総合計画をテーマにした教育プログラム(ミライソウゾウプログラム)を開発し、市内の小中学校の授業で展開する。
- ▶ 中高生対象の人材育成リーダー研修の実施により、課題解決やパートナーシップのマネージメントスキルのある次世代プレイヤーを育成し、持続可能なローカル SDGs の基盤強化を目指す。

1.4 地方創生・地域活性化への貢献

■現状

- ▶ 本市は、少子高齢化と人口減少に立ち向かう「地方創生」に全力を注いできた。加えて、 現在は大橋川拡幅改修工事や新庁舎整備事業など大規模事業を抱えており、まちづく りの「変革の時期」を迎えている。
- ⇒ 豊かな自然と歴史・文化に育まれた「国際文化観光都市 松江」が進めるまちづくりは気候変動対策や脱炭素化、SDGs の達成、生物多様性などの世界が目指す持続可能な社会の形成と目的を一にし、親和性が非常に高い。
- ▶ 本市にとっての SDGs は、まちづくりのための極めて重要な羅針盤になると考えており、 「MATSUE DREAMS 2030」の実現のためには、SDGs をまちづくりの中核に据えて取り 組むことが不可欠である。

■オール松江市で取り組む SDGs

- ▶ 古くからの本市のまちづくりの特徴の一つに公民館を拠点にした住民主体のまちづくりがあり、行政施策の隙間をきめ細かに埋める多彩な活動は住民が価値観を互いに共有することで成功してきた。
- ▶ 本市は、市の重要課題である SDGs を地域に根付いた共通言語にし、グローバルな羅 針盤を市民に身近なローカルレベルにフォーカスしてオール松江市で取り組むことで、今 後はコロナ禍前を上回る水準で成長し、地に足の着いた地方創生を実現する。

■私たちが目指す持続可能なまちづくり

- ► 松江には「茶の湯文化」を花開かせた松江藩松平家 7 代藩主「松平不昧公(治郷)」や松江に残る日本の伝統文化の魅力を「オープンマインド(開かれた精神)」によって捉え、その魅力を絶賛した「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)」など、SDGs の先駆者たちがいた。
- ▶ 本市は全市を挙げて「SDGs 未来都市計画」の取組を進めることで、先人から連綿と受け継いできた豊かな自然・歴史・伝統・文化などの古き良き価値を更に際立たせ、脱炭素や DX、働き方改革などの次代への新たな潮流と掛け合わせることで、松江に関わる全ての人にとって「サステナブルな松江」となることを目指す。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1)課題・目標設定と取組の概要

自治体SDGsモデル事業名:「水の都・MATSUE DREAMS」で達成する持続可能な経済・ 社会・環境

①課題・目標設定

<経済> ゴール 2、ターゲット 3 ゴール 8、ターゲット 9

ゴール 14、ターゲット 7







<社会> ゴール 4、ターゲット 7 ゴール 13 ターゲット 1

ゴール 13、ターゲット 1 ゴール 14、ターゲット 1







<環境> ゴール 6、ターゲット 6

ゴール 11、ターゲット b ゴール 12、ターゲット 5

ゴール 13、ターゲット 3 ゴール 14、ターゲット 2











②取組の概要

▶ 松江を象徴するキーワード「水の都」をテーマに、宍道湖・中海・日本海をトライアルエリアに設定し、保全と活用による経済循環の文化を醸成するとともに、水域の利活用に関するルールづくりや生物多様性を生かした脱炭素の取組などを通じて、誇りと愛着を持ち暮らしていける次世代の「国際文化観光都市」を目指す。

③全体計画への効果

- ▶ 本モデル事業を通して、特に若者や子育て世代が松江の魅力と課題を「体験」として学ぶことで、地元への愛着を改めて育むとともに、自然環境の損失を未然に防ごうとする市民文化を醸成し、脱炭素社会やネイチャーポジティブ社会の実現に貢献する。
- ▶ 本事業によって自ら改革のプレイヤーとなる市民が増えることで、100 年先、200 年先に も松江のまちづくりを支える次世代人材を育成し続ける持続可能な文化が育ち、市民が 水に親しみ楽しむことができる、松江らしいリジェネラティブな「水の都」のライフスタイル が実現する。

(2) 三側面の取組

①経済面の取組

【課題】「水の都」の商品価値の向上

ゴール、 ターゲット番号			KPI
8 64.004	8.9	指標:観光宿泊客数【再掲】	
M		現在(2020年):	2025 年:
		115 万人	219 万人

①-1 水の都の魅力活用事業

くヘルスツーリズム> 【宍道湖】

宍道湖畔での心身のリフレッシュや健康増進のコンテンツづくりにより、湖畔の魅力を 高める。【デジタル田園都市国家構想交付金申請予定事業】

<嫁ケ島桟橋整備·活用事業> 【宍道湖】

老朽化した嫁ケ島の船着き桟橋を改修し活用することで、宍道湖・嫁ケ島の魅力を向上させる。【デジタル田園都市国家構想交付金】

<水辺の利活用促進事業>【宍道湖】

大橋川拡幅予定エリアに隣接する白潟公園において、飲食・物販・アクティビティに関する市街地での賑わい創出の社会実験を行う。

①-2 道の駅本庄リニューアル事業 【中海】

年間8万人の利用者がある「道の駅本庄」の施設をリニューアルし、地場農産物等の 生産・販売拡大に繋げ、市民や観光客の交流と賑わいの強化を図る。

①-3 うみづくりプロジェクト

〈アワビ種苗生産振興事業 / 循環型漁場再生事業〉【日本海】

産学官連携によるアワビの種苗生産等を通じて過疎地域における産業基盤の確立と付加価値のある松江ブランドの販路拡大を図る。また、漁業者管理型の海藻の種糸付小型漁礁を造成し、藻場回復による持続可能な循環型漁場の構築を目指す。

くサルボウガイ養殖支援事業> 【中海】

中海漁業協同組合によるサルボウガイの資源調査の実施及び放流を支援する。また、 アサリ・サルボウガイの養殖施設整備に係る経費の一部を助成する。

<潜戸 100 周年カウントダウン事業> 【日本海】

「加賀潜戸」の国の名勝等指定に係る記念事業(海底貯蔵酒、海底タイムカプセル)



② 社会面の取組

【課題】水環境との共存ライフスタイル

ゴール、 ターゲット番号		KPI
4 ******* 4.7	指標:水域の利活用ガイドライン作成数	
	現在(2022年): 2025年:	
	_	4 種類

②-1 水の都のトリセツづくり

自然環境の保全やその魅力を生かした経済活動を地域振興のきっかけとして、関係する当事者同士の合意形成(ルール作り)を図ることにより、当該地域の魅力向上とプロセスの共有を通じた地域コミュニティの持続性向上を図る。

<市役所新庁舎利活用トライアルサウンディング事業)> 【宍道湖】

宍道湖に面した新庁舎での日常的な賑わい創出に向けて、民間事業者に一定期間新庁舎を利活用してもらい、効率的な運用方法の検討を行う。

<水の都のトリセツづくり(宍道湖・大橋川編/中海編/日本海編)> 【各水域】

レジャー等による水面利活用のルールをはじめ海岸漂着ごみ回収などの生活課題の解決に関するルール作りを行う。

②-2 中海スポーツパーク整備・活用事業 【中海】

中海にある本庄工区干拓地に人工芝多目的広場とウォーターアクティビティを中心としたスポーツ施設を整備し、新たな親水性ある賑わい創出の拠点とする。中海周辺自治体との連携を視野に活用策についても検討を進める。

②-3 まつえ循環プロジェクト【日本海】

「まつえ環境クリエイティブディレクター」に就任した新羅慎二氏と市役所の若手職員が連携し、古民家の再生やタンスコンポストの推進、シジミ殻の再資源化などサステナブルな暮らしを実践する。



③ 環境面の取組

【課題】保全価値のアップサイクル

ゴール、 ターゲット番号			KPI
6 SEENERS	6.6	指標:水環境にまつわるアップサイクル実現数	
D		現在(2022年):	2025 年:
		1種類	4 種類

③-1 学びのブルーカーボン推進事業

くブルーカーボン実証実験> 【日本海】

ワカメの藻場造成及び二酸化炭素吸収機能を生かしたクレジット化の試験調査を行う。併せて、前掲の「循環型漁場再生事業」との相乗効果により藻場の拡大を目指す。

<ドローンで学ぶ島根半島ブルーツアー>【日本海】

市民を対象にドローン(空中・水中)を活用した船上環境学習ツアーを実施し、多様な海洋課題について現場体験を通して学ぶことで、地元への愛着と環境・生態系保全活動のプレイヤー拡大を狙う。

<ブルーカーボン活用研究会の設立>【中海】

「中海・宍道湖・大山圏域市長会」と共にワーキングチームを立ち上げ、圏域でのブルーカーボン導入の可能性について検討を始める。

③-2 ジオパークを生かした防災・減災教育プログラム普及事業 【各水域】

「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の地質や地形を正しく理解することで地域の防災意識の向上につながるよう、出前講座やシンポジウムなどを通じて教育プログラム等の普及に取り組む。

③-3 松江流ブルーアップサイクル事業

<宍道湖浄化と堆肥化実証実験> 【宍道湖】

水質悪化の原因となっている水草の堆肥化実証実験を行う。また、ヨシを活用したストローや紙のイベント活用で、水域の水質浄化と生態系保全の意義を広く普及させる。

くブルーアップサイクル研究プロジェクト> 【宍道湖·中海·日本海】

地域の困りもの(海洋プラごみ、シジミ殻、松江城の堀川に繁茂する水草など)を企業連携によりアップサイクルし、「ご当地×SDGs」の新たな視点でのアウトドアグッズの研究開発や販売を通じて環境問題への関心を高める。また、化石燃料代替えとしてプラスチックごみの油化利用についても進める。



(3)三側面をつなぐ統合的取組

(3) -1 統合的取組の事業

統合的取組の事業名:松江流「水の都」NEXT プロジェクト

 $N \cdots Network (ステークホルダーのネットワーク)$

E…Enthusiasm (まちづくりへの熱意)

X···× (未知の出来事・経験)

T…Trial&error (失敗を恐れないチャレンジ精神)

(取組概要)

企業や学校、地域、団体などの熱意ある多様なステークホルダーがローカル SDGs に気軽に取り組み、新たな気付きを自己実現に繋げることができるよう、コンソーシアムの設置や企業経営の支援制度を創設する。特に次世代の人材育成に主眼を置く。

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

➤ 三側面における良好なコミュニケーションを促し、新たなアイデアや気づきを関係者全体にフィードバックできる場づくりや、事業展開の際のマーケット拡大支援、利害関係者がともに納得できる客観的な合意点の構築に主眼を置き、大規模な予算や組織を必要とすることがない持続可能な体制を強く意識して仕組みづくりを行う。

●「水の都」コンソーシアム

<「水の都」コンソーシアムの創設> 補助対象事業(全体マネジメント)

(学 ぶ)目的意識の共有と互いを尊重できる関係の構築を目指す。

(繋がる)新たなアイデアや課題解決のヒントなどを見出せる場とする。

(広げる)ローカル SDGs を市民運動として進めるための拡散・実践プラットフォーム。

<松江市 SDGs ウィーク> 補助対象事業(普及啓発)

シンポジウムや事例発表などを通じて、地域課題の解決に主体的且つ持続的に取り組む機運を醸成する。

●SDGs 推進ビジネスパッケージ

既に SDGs 経営に取り組んでいる企業の取り組みを後押しするとともに、特に後発の中小企業が SDGs に向かいやすい環境づくりを行う。制度構築にあたっては官民協働での制度創設を目指す。

<企業宣言・登録制度等の創設> 補助対象事業(全体マネジメント)

SDGs 経営に先導的な市内企業が良好なバリューチェーンを築くことができるよう、企業価値の向上に寄与する制度構築を目指す。

<入札指名登録の加点制度>

SDGs に積極的な宣言企業及び登録企業について、入札・指名登録時に加点し、 SDGs 推進のアドバンテージを付与する。〈①総合評価方式入札における加点制度、 ②建設工事業者の格付け時における加点制度(土木・建築のみ)〉

くふるさと寄附の拡大>

「水の都」と SDGs の推進に寄与する事業の初動財源を確保

●松江流 ESD プロジェクト

<ミライソウゾウプログラム>

松江市総合計画と SDGs をテーマにした教育プログラムを開発し、市内学校の授業で展開する。

<「水の都 tube」僕らの ESD プロジェクト> 補助対象事業(事業実施)

次世代を担う子どもたちが中心となって SDGs の啓発コンテンツを作成し、学校や地域・企業などで活用する。

<ジュニア SDGs リーダー育成事業> 補助対象事業(事業実施)

中高生対象の人材育成リーダー研修の実施により、課題解決やパートナーシップのマネージメントスキルのある次世代プレイヤーを育成する。

●「水の都」だんだんコミュニケーション

くふらっと縁カフェ+(プラス)SDGs>

市民と市長との対話の場「ふらっと縁カフェ」の定期企画版として、市長、SDGs アドバイザー、広報企画官、SDGs に取り組むステークホルダーなどで意見交換会を行う。

<出張 SDGs 出前講座> 補助対象事業(普及啓発)

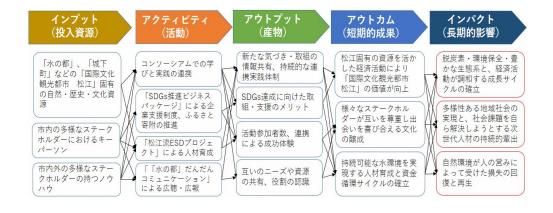
小中学校及び29公民館単位の地域の住民を対象に、SDGsと身近な取組について学べる出張講座を開催し、正しい情報の発信とSDGsを自分事として取り組む機運を醸成する。

<パートナーシップ·アクションレター>

「松江サステナビリティポリシー」に掲げた「出会いを喜び合えるパートナーシップ」の 実現のため、主要な連携事業実施の際にステークホルダーとの相互評価を行う。

<「MATSUE SDGs NOW!」の発信>

SDGs 達成に向けた取り組みを市民運動として進めるため、市内外の SDGs に関する情報を手軽に知り、広げることのできる情報を市民との協働で発信する。



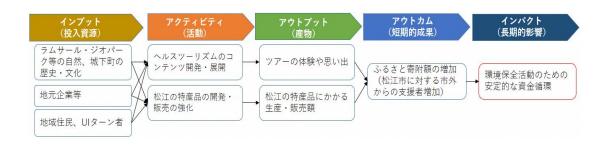
(3) -2 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

①経済⇔環境

(経済→環境)

KPI(環境面における相乗効果等)		
指標:ふるさと寄附額		
(使途「宍道湖・中海などの自然を生かしたまちづくり」)		
現在(2021年): 2025年:		
16,000 千円/年	30,000 千円/年	

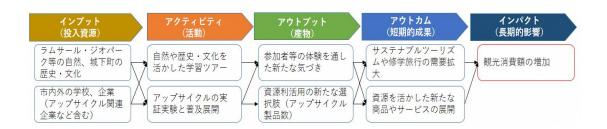
本市の水環境を生かしたまちづくりの取組が市外在住者に高く評価され、松江に関わりがある縁者などを通じて松江の認知度が広まることで更なる賛同者の輪が広がり、ふるさと寄附による支援が増加する。



(環境→経済)

KPI(経済面における相乗効果等)		
指標:観光消費額		
現在(2020年):	2025 年:	
349 億円	666 億円	

本市の豊かな自然や歴史・文化資源を活用したサステナブルツーリズムや修学旅行などの需要が高まり、新たな関連商品やサービスが滞在型観光メニューとして展開されることで消費が拡大する。



② 経済⇔社会

(経済→社会)

KPI(社会面における相乗効果等)		
指標:UI ターン者数		
現在(2020年):	2025 年:	
1,080 人	1,230 人	

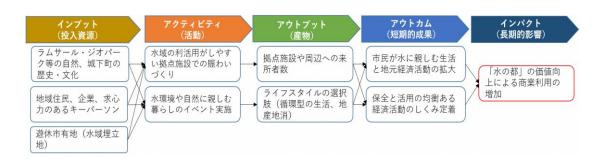
地域資源を生かした産業振興が図られることで、松江での生活基盤の魅力が高まり、若 者の地元定着が増加するとともに、本市での就業を希望する都会地等からの UI ターン者 数も増加する。



(社会→経済)

KPI(経済面における相乗効果等)		
指標:「水の都」の商業利用品目の増		
現在:	2025 年:	
データなし	2023 年度上旬実施予定の	
	企業調査により設定	

自然環境に関する市民の保全と活用の活動がバランスよく定着し、住民自らが好んでローカル消費を求めるようになることで、「水の都」ブランドを生かした商品やサービスの造成が進む。関連商品はブランド化やふるさと寄附返礼品などでの活用も検討する。



③ 社会⇔環境

(社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等) 指標:認定ジオガイド養成数及び環境市民会議会員数 2025 年: 認定ジオガイド 55 人環境市民会議会員(個人) 205 人、(団体) 49 団体(事業所) 105 企業 (個人) 225 人、(団体) 54 団体(事業所) 115 企業

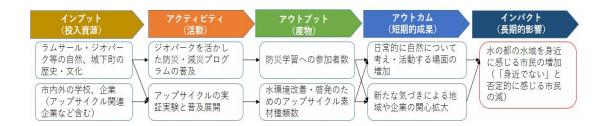
自然環境に関する市民の保全・活用の活動が浸透し、住民自らが地域資源の保全を主体的に行うことで、自然環境保全活動のリーダー人材の育成が図られる。



(環境→社会)

1		
KPI(社会面における相乗効果等)		
指標:各水域のことを「身近に感じていない」市民等の割合		
現在(2023年):	2025 年:	
宍道湖 4.5%、 中海 36.4%	宍道湖 2%、中海 18%	
日本海 29.8%	日本海 15%	

市民の間で自然環境保全への意識が高まり、水環境と生態系の質が改善されるとともに、商品やサービスの購入や利用、イベントなどを通じて日常的に活用する機会が拡大し、親しみを感じるようになる。



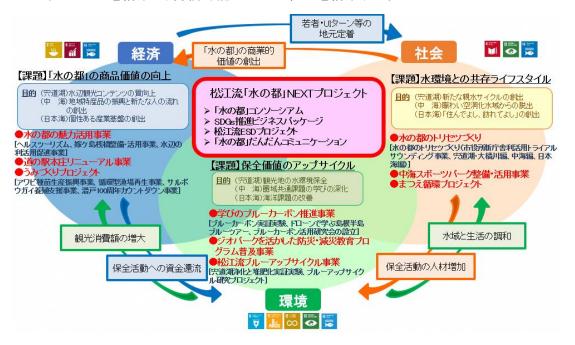
(4)多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割			
「水の都」コンソーシア	産学官の連携により新たに設置する予定の組織。企業支援			
<u>ا</u>	や市民運動の核となる。			
商工団体	コンソーシアムの設立・運営をはじめとする仕組み構築な			
	ど連携を深める。			
観光協会	「水の都」らしい観光メニューの造成など全般で連携。			
金融機関	SDGs に取り組む企業の裾野を拡大し、経営を通じた付加			
	価値向上につなげる制度を構築する際のパートナー。			
地域住民(公民館、町内	当事者として参画し、地域疲弊の原因となるボトルネック			
会・自治会連合会ほか)	の解消と次世代が住みたくなる地域づくりの実践を担う。			
市内の小中学校、高校	自己解決力のある次世代プレイヤーを育成。			
(保護者を含む)				
学生(島根大学、島根県	ESD 推進の枠組み構築の他、若者世代のローカル SDGs へ			
立大学、松江工業高等専の参画と定住のフック的存在。				
門学校)				
市外の大学	関係人口としての地域の賑わい創出や、アウトサイドイン			
	の視点により松江の魅力の再発見と全国への発信。			
環境保全 NPO、まちづく	水域の保全・活用や SDGs の普及における事業パートナ			
り NPO 等	<u> </u>			
若手青年団体(松江青年	地域課題解決のパートナーとして持続可能な仕組みづくり			
会議所ほか)	や新たなまちづくりのアイデア実現に参画。			
全国の松江会や縁者	平素から故郷への愛着によって結ばれる縁を生かし、ふる			
	さと寄附による支援のほか、新たなステークホルダーとの			
	連携の橋渡しなども働きかける。			
包括連携協定締結企業等	経済基盤となる地産地消の普及促進のほか、アップサイク			
市内外の企業	ルの実証実験などにより新分野をけん引。			
島根半島・宍道湖中海	「水の都」の重要資源である自然環境等の保全と活用の全			
(国引き) ジオパーク推	般で連携。			
進協議会				
宍道湖水環境改善協議会	自然環境や水鳥等生態系の保全・活用の啓発と実践で連			
ほか	携。			
中海・宍道湖・大山圏域	水域エリアに係る共通課題の研究、他地域との相互横展開			
市長会等	などで相乗効果を発揮。			

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

(事業スキーム)

- ▶ 本事業は、本市の重要な経済基盤の元となっている、豊かな自然環境の「保全と活用の両立」を市民のローカル視点で取り組むことにより、人口減少とコロナ禍により受けた生活基盤と経済基盤の損失を回復し、さらにプラスに成長させるという特徴がある。
- ▶ 本市は、人的・財源的リソースが限られる状態でも目先の一過性ブームで終わることがないよう、企業や市民と共に目的を確認し合いながら課題解決に結びつけるための事業プロセスを構築し、持続可能な次代の松江を構築する。



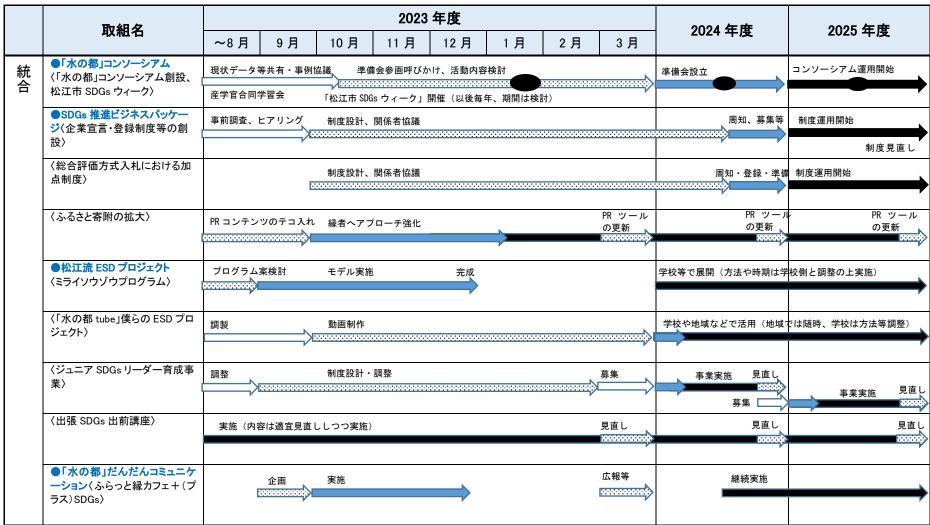
(将来的な自走に向けた取組)

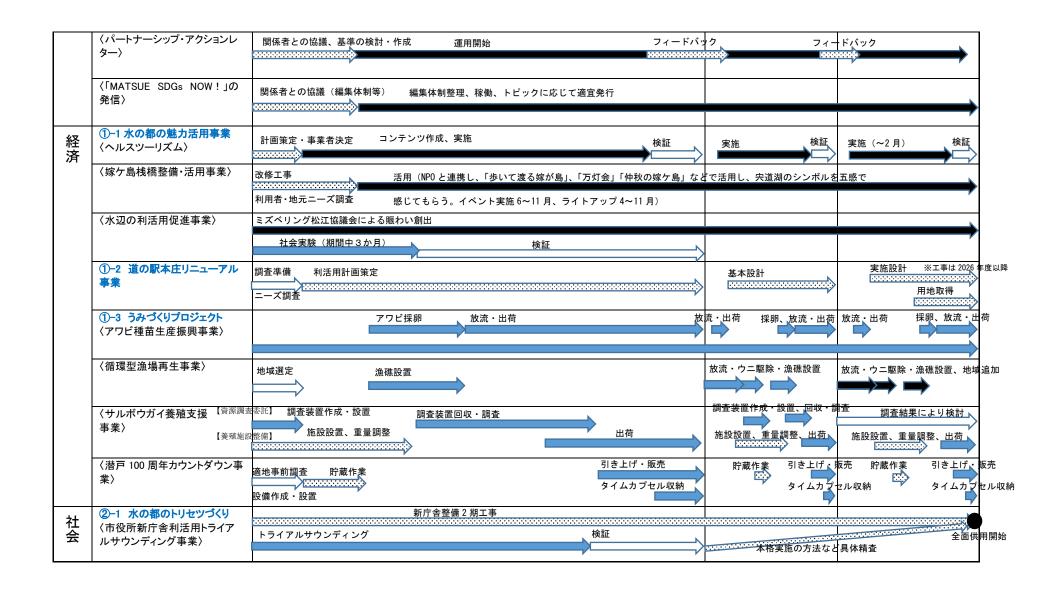
- ▶ 自然・生態系、歴史・文化などへの市民の関心や、市内企業の経営改革への挑戦心が 薄れてしまうと、これを拠り所とする経済的な活動が低迷し、発展の可能性が失われる とともに、現状を維持する体制すら脆弱になりかねない。
- ▶ 本市の SDGs の好循環サイクルを自走させるためには、立場が異なるステークホルダーが総合計画に謳う「夢の実現」と「まちへの誇り」を松江市民共通の目的に掲げ、その実現を阻む様々なボトルネックを自らが解決しようとする風土の定着と更なる醸成が必要である。そのために、先ずは人材育成を重点目標にコンソーシアムを軌道に乗せることで、課題解決を恐れない、「コーディネートできるプレイヤー」の裾野を広げていく。
- ▶ また、次世代の主要アクターである小中学生や高校生などのような比較的限られたエリアを主とする生活者とその保護者へは、より一層松江の魅力を客観的な視点で認識してもらえるよう、体験を通じた啓発活動などに特に重点を置く。

(6)自治体SDGsモデル事業の普及展開性

- ▶ 本モデル事業は、市街地と過疎地域が近接するエリアを対象に、地域固有の自然・文化・歴史などを生かした経済基盤づくりと人づくりを行うものである。市民運動による地域課題の解決をベースにしたまちづくりの取組や、都会地とは異なる地方都市固有の魅力発信を重要視する類似の環境下にある自治体にとって好事例となる。
- ▶ また、県境と市境に所在する広域的な水域での単独自治体が主となった取り組みが起点であり、行政区域を越えた自治体連携へ発展するプロセスについても、自治体間連携を模索する市町村の参考となり得る。

(7) スケジュール 調査 調査 対動精査 本格稼働





〈水の都のトリセツづくり(宍道湖・大橋川編、中海編、日本海編)〉 ②-2 中海スポーツパーク整備・	方針決定、関係者調整、ワークショップなど	基本ルール策定	周知・実践・検証	改善・実践	
	**** * * * * * * * * * * * * * * * * * *				
		造成工事		照明塔建設、設管条例制定	供用開始、デー
	②-3 まつえ循環プロジェクト	エリア利活用に係る基本構想策定、島大連携		エリア利活用に係る基本設計	
•		農的暮らし体験に係る関係者協議		農的教育の実施	古民家改修、プレイヤー募集、門
		タンスコンポストの普及(堆肥の活用検討:まつえブランド開発) 松江ファーマーズマーケット(月1回)	+= <i>y</i> 1 <i>D</i> 1		販売、PR づき実施、PR
^坛 境	3-1 学びのブルーカーボン推 進事業 〈ブルーカーボン実証実験〉	情報発信、プレイヤーの支援、ワークショップなど		クレジット認証	全国に向け PR
			,		ŕ
	〈ドローンで学ぶ島根半島ブルー ツアー〉	企業・団体等関係者協議		試験実施精査・改善	調整 本格実施
	〈ブルーカーボン活用研究会の 設立〉	関係者協議(境港市及び圏	域市長会との協議が整い次第、設置・	活動開始)	
	ı				
	③-2 ジオパークを活かした防災・減災教育プログラム普及事業	防災・減災教育プログラム作成委託 	·····	地元住民などへフィールドワ-	- ク展開
	③-3 松江流ブルーアップサイクル事業	可能性調査・検討・実証		実証実験	実証・PR
	〈宍道湖浄化と堆肥化実証実 験〉	>		<u> </u>	
	〈ブルーアップサイクル研究プロ ジェクト〉	連携協定締結、仕組み調整、実証実験		試作・試験展開	検証・展開

松江市SDGs未来都市計画

令和5年8月 第一版 策定